ふりがな　えのもと　たけふみ

氏 名　**榎本　武文**

1. 学歴

1984 年　3 月　東京外国語大学外国語学部卒業
1984 年　4 月　東京大学大学院人文科学研究科修士課程入学
1987 年　3 月　同修了
1987 年　4 月　同博士課程進学
1991 年　3 月　同単位修得退学

2. 職歴・研究歴

1991 年　4 月　一橋大学経済学部専任講師
1996 年　7 月　文部省在外研究員およびロンドン大学ウォーバーグ研究所客員研究員（1997 年 5 月まで）
1997 年　5 月　ロンドン大学ウォーバーグ研究所客員研究員（1998 年 3 月まで）
1998 年　4 月　一橋大学大学院経済学研究科専任講師
2001 年　1 月　一橋大学大学院経済学研究科助教授
2007 年　4 月　一橋大学大学院経済学研究科准教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

（a）学部学生向け

英語ⅠA，英語Ⅱ，英語Ⅲ，英語初級，各国文学論（イギリス文学原典講読，イギリス文学概論，イギリス文学史），地域文化論（イギリス），経済文化

（b）大学院

各国経済思潮

B. ゼミナール

学部前期，学部後期，大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部の講義では，英語テクストを正しい発音で音読し，その内容を正確に読みとるとともに的確な日本語に移しかえることに重点を置く（「英語ⅠA・Ⅱ・Ⅲ」）。上級レヴェルの授業（「各国文学論」・「経済文化」等および演習）では，毎回の授業時までに一定の分量のテクストを読んでくることを受講者に求め，その上で各人に独自の意見を発表し互いに討論しあうよう促している。

大学院の講義では，ルネサンス期イタリアに関する研究書（政治史，経営史，建築史等）を講読している。演習では，ルネサンス期の人文主義者による著作（主としてラテン語）およびこの研究分野の研究文献を輪読している。演習で扱う文献は，たとえば，Marsilio Ficino, *De vita* や R. Klibansky, E. Panofsky, F. Saxl, *Saturn and Melancholy* である。

4. 主な研究テーマ

(1)ルネサンス期の人文主義・修辞学全般。

特に，以下の個別テーマに関心を持っている。

(2)ルネサンス人文主義における文学的模倣論(キケロ主義論争を主な対象とする)。

(3)15 世紀イタリアの修辞学思想(レオナルド・ブルーニ，ジョヴァンニ・ピコ・デッラ・ミランドラ，エルモラオ・バルバロ，アンジェロ・ポリツィアーノを中心として，修辞学=弁証術の対立への人文主義者からの反応を対象とする)。

(4)アンジェロ・ポリツィアーノの人文主義・文献学に関する基礎的研究(ポリツィアーノの初期刊本を書誌学的な対象とし，またその人文主義的著作の内容解釈を対象とする)。

5. 研究活動

A. 業績

(b) 論文(査読つき論文には*)

「ルネサンスにおけるキケロ主義論争」『一橋大学研究年報　人文科学研究』第 36 巻，1999 年，269-333 頁。

「ポリツィアーノの〈自己表現〉について」『言語文化』(一橋大学語学研究室)第 36 巻，1999 年，67-76 頁。

「ルネサンス修辞学の諸主題—パーオロ・コルテージの『学識ある人々について』から」『一橋論叢』第 123 巻 第 3 号，2000 年，446-460 頁。

「15 世紀イタリアの修辞学思想」『一橋大学社会科学古典資料センター Study Series』No. 55，2006 年，1-27 頁。

(c) 翻訳

ジェフリー・グリグスン『愛の女神—アプロディテの姿を追って』(共訳)，1991 年，書肆風の薔薇，321 頁。

レイモンド・クリバンスキー，アーウィン・パノフスキー，フリッツ・ザクスル『土星とメランコリー—自然哲学，宗教，芸術の歴史における研究』(共訳)，1991 年，晶文社，674 頁。

D・P・ウォーカー『古代神学—15-18 世紀のキリスト教プラトン主義研究』，1994 年，平凡社，367 頁。

チャールズ・B・シュミット，ブライアン・P・コーペンヘイヴァー『ルネサンス哲学』，2003 年，平凡社，512 頁。

6. 学内行政

(b) 学内委員会

英語スキル科目ワーキンググループ委員(2009 年 5 月 － 2010 年 7 月)

全学企画運営委員会委員(2012 年 4 月 －)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

中央大学文学部兼任講師(2010 年 4 月 －)